

公共交通のあり方 に関する要望書

令和2年6月

矢板市議会

1. 要望の要旨

市民の生活の足である公共交通の利便性の向上

2. 要望の背景と理由

昨今、高齢ドライバーによる重大事故が社会問題になり、全国的に高齢者の免許返納が進んでいる。しかし、地方に住む高齢者にとって、車は生活に欠かせない足であり、通院や買い物に必要とされていることから、免許を返納した高齢者がその後の移動手段に悩まされている現状となっている。

昨年実施した議会報告会・意見交換会において、現行の市営バスの運行状況では、免許返納後の足として良いものであるとは言えないため、新たな公共交通の導入についての要望があった。

また、高校生との意見交換会でも、運動公園に行くなど外出する場合、親や先生に送迎してもらう必要があり不便であるため、現在の公共交通の利便性の向上を期待する要望があった。

以上のことから、本市においても新たな公共交通のあり方を検討することが急務であるといえる。

矢板市でも市民の多くの声により、来年「デマンド交通」を導入する方向で進められている。矢板市において市民にとってさらに便利な「公共交通」にするために、十分な検討を望むものである。

令和2年6月12日

矢板市長 齋藤 淳一郎 様

矢板市議会議長 石井 侑男